



源氏物語

四



源語忍草卷之四

目錄

推本
竹川
白宮
所法
鈴虫
柏木

模筆
夕雲
幻
紅梅
播娘
總角



がーの末

右邊の習帳を立ち終るまで年をうぐぬすむやうあぐく
ても思ふ一筋の叶はぬ世ふあるのひもあ一終ふ源ふ
あゝねまうぬきば秘しうかう一又女三のまの序たち
にもああくぬが源の由にくもてうけう終へしとふ
わふは終ふぬしこそよう一わめ誰かみそをねあぬ
あふまはどあて惜むとさううのと思ひにだけてぬ
あうさー序からよう一とて親達まきうひまふあ
あゝと女三のまをう終ふ今の限りにあり終るをいつ
たと同せあらぬと理の終るど恨しうも終るかと書て

24

おとめと虫ありと力多ふ。入道女三姉妹

涉之——六条院

70

[illegible]

山道のあつちをさうろつたふと出むるもあつちで
 夕雲の大將といはふよりものゝ名ありけり 落葉のま
 山道のあつちをさうろつたふと出むるもあつちで
 夕雲のあつちをさうろつたふと出むるもあつちで
 肉を食ふとてさうろつたふと出むるもあつちで
 水のあつちをさうろつたふと出むるもあつちで
 まるまるとさうろつたふと出むるもあつちで
 水のあつちをさうろつたふと出むるもあつちで
 まるまるとさうろつたふと出むるもあつちで
 水のあつちをさうろつたふと出むるもあつちで
 まるまるとさうろつたふと出むるもあつちで

一

白王

冷

第百九

紫のうへは葉の下は巻ふつと煙ひかり後病あり
年は弱のまふ源の界新くするやうなり。山預めて
ふ部の法華經を書させあへる代二条院で供養せし
給ふ市龍ふあつる法服を給ふ物の縫あをさうとて
あふ明名の山方花ある果とちやうりん冠あふ海りあふあつてめり
あふも本と別あをておし海り明名の山方葉のう
おめねばあがも限りて新あふたふあふも進し
序のうへは

紫のうへは葉の下は巻ふつと煙ひかり後病あり

紫のうへは葉の下は巻ふつと煙ひかり後病あり

紫のうへは葉の下は巻ふつと煙ひかり後病あり

紫のうへは葉の下は巻ふつと煙ひかり後病あり

紫のうへは葉の下は巻ふつと煙ひかり後病あり

紫のうへは葉の下は巻ふつと煙ひかり後病あり

紫のうへは葉の下は巻ふつと煙ひかり後病あり

紫のうへは葉の下は巻ふつと煙ひかり後病あり

紫のうへは葉の下は巻ふつと煙ひかり後病あり

明石中宮也

紫のうへは葉の下は巻ふつと煙ひかり後病あり

紫のうへは葉の下は巻ふつと煙ひかり後病あり

かく成るさんとわがしめて念じ終るぞ拙より何なるぞ
 まふ方常と申すふらそりてむの神もあへ出終るは海を
 よろがふ願あはるえあふあはるふ月し海面新とく日し
 ぞし海して理のぞめと思ふ海もあはるをわがしはる
 ろふ水新うそを始てふよりすくはひあはる又あ
 し終るも終ぬ水ありあを世の海を思ひあはるやうに
 佛のすめあはるをぞとびあはるうしてむくあはる
 あはるすれあはる成るうそむくわあはるむくわあ
 してふ仏の道ふもわがしやうどばあし一羽のあはるあ
 佛を念し終るはの大長安の上のむくはあはるもは
 終るは首成りしうして終はの大長

古の秋と今秋の別を知らずて如き所一神を露を重く不
 得と云ふ一六条院

諸君よ、いかに世も物も常なるに、秋の世もつゞね
 中々なごとも、わささう、万ある、哀しい事なごよ

まへ

源の婆桑のふりかく道ありや。明く年終まの光をくらふ
ひけてもく道海をいふや。にのこはふとくをさし
その政るぐくもあふねふ。伊禮の人ふ。創^は年のやうに

寺の鈴すずにしるるありてしるるをあやふしり
 されまほしと對面しあふなり。ふりしほどに
 ちづむべきほどは月はおひげきされびづるまゝの
 世の人まじにけはせられもつてあづー。あひはきて
 人をもあづりていふれども。同いふあはれにさう
 むねいひやると目ふえさういふあはれ也とわが
 せだまきにもく山簾を隔へだてて對面しあふ山簾の三のまきと山簾
 みくふ二月ふあひだ花の本もあはれあはれとわが白ひ
 みちたるふ三のまきまうろが様もあはれあはれとわが
 ちいす本のほかにに帳をきて帷子をおろしなす山簾
 ちいすトをわがあはれあはれとわがまれあはれとわが
 ぶつもの神かみもあはれいふふいふ。いふあはれとわが
 ぶつもの神かみもあはれいふふいふ。いふあはれとわが
 風ふちいふとわがあはれあはれとわが。本もあはれとわが
 几帳をきてとのまき三のまきあはれとわが。いふあはれとわが
 女三のまきわつりあはれあはれとわが。お佛堂のあはれあはれとわが。何のあはれと
 山簾にちいすあはれとわが。いふあはれとわが。あはれとわが
 世もあはれとわが。いふあはれとわが。いふあはれとわが
 人もあはれとわが。いふあはれとわが。いふあはれとわが
 ちいすいふとわが。いふあはれとわが。いふあはれとわが

ほくしきあるまふ^蜩きりしきあるまふやふちなぐしこの

みぶるはびとつとあるげあぞめひさうとける源

つとむとわつとむとくはまの目とむとく神と虫のこふお

七月七日の夜にむとく星をみる人もなり源

七月の夜にむとく星をみる人もなり源

八月十日の夜にむとく星をみる人もなり源

君の扇子ふ

君の扇子ふ

と書はけしと書はけしと源

人さるるあふとまふあふとまふと源

九月九日少。綿おちひあるまふと源

法もろふふわらふふ一葉の朝露もふと源

とあるしとつり。林中にふとふと源

おちふ也十月はちこのまふと源

とあるとわつと馬の朝つぎとやまふと源

とあるとわつと馬の朝とやまふと源

とあるとわつと馬の朝とやまふと源

とあるとわつと馬の朝とやまふと源

とあるとわつと馬の朝とやまふと源

だふ子と名のりてはもろくをいふとぞあはれ
 心ひたしておまへふて横せよちうこの中ふてもいふ人の
 書しあふど見ふ人あつてはふていふしこれぞ
 見ふぬまでぬりおれは海の水さふあがれそをいふ
 知よりいふ人のいふとぞいふていふていふていふて
 だふ子と名のりて

志をいふでにひひ。そのびまおろもば白ひふくれあけきだ。
 めうめうはさぶるまふ。吾那卿のまふばうのうとらやまう
 のりあひてさくれき集^{あつ}あふ。中ねえふふ。そまつわかど
 は白ひ也見ふよの世の人。是名ふ^いな。中ねふふ。吾那卿の
 まふとして矢くでい^がめやうとらや

紅梅

[illegible]

花の香ふとては道ぬきもあふせ風の便をすむとて海
 白くあふとて香もあつてなみけとめであり。此より一

卷之七

竹
川

盤龍の太政大臣の源の四娘今の玉首の肉付と云の方小持せ
 あり。その後其男二人女二人出とあり。姫君達と女侍小
 主とせんとかづとあり。盤龍は其子とあり。入内と侍の女。
 二人の姫君。その子に。と云ふ。此女とあり。是を冷泉院
 より。帝より。女侍小主とせよとの云と也。ひり。母
 玉首。冷泉院と云のあり。と云ふ。と云ふ。と云ふ。盤龍の女侍小

取てお送せしをあらうに比姫君を冷泉院（なりむと玉菫の
 名）夕雲の大内府三男花人少将とくふ人比姫君をみづけ。
 所あるに候て、あまどいりりきふは花人の少將の母方ふ侍。
 姫君といとも同^が也。姫君の清才ふ侍候といふをみてひは事
 そのやうにとせありあつる中ねも比玉うゝそん兄弟あつた。
 うとめだけりあひいつ。姫君達のよりをも使咄大あはれ思ひ
 あでふえ実^{ぶら}ある君あまはさふ出で候き福あはけふは。
 西月に侍後の君の部やへ花人の少將^{ちやう}兼平^{かねへ}おたりし。琴
 なぞ彈き竹川とうたひけひき柳の葉を小忠るんごくと。
 竹川といふ。假^{さい}馬^ば樂^{らく}といひて秋代のももひきの也。是ひと

とうとうがらへて何に泣き死んでしまふか。花人の小將がめづるを。
 聲にきこえて、その代金を二人のく、官位も高く、おぼえも
 同一けさぶ、中々めづるおぼえ、そのをと懐ひたり。

五部

そは世ふべしとて、
八のまゐりて、源氏の侍也。冷泉院の宮人源氏の侍子なり。
兄才
うづの侍也。冷泉院を春宮ふす。ちよせ給ふ時。
弘徽殿
源氏の侍兄朱雀院の侍母源くねとありて、同一侍子
ちよこ
なれど、八のまゐりを表さふまじきと云ひ、あまのうらみ毒殺せり。

[illegible]

運を教ひ成人りてあそぶ一多ぶ琴びわをなすせむのうらうなる

日新くわ池の水鳥くわぞものぼるひ離ぬをうらや海うみの波があらひて

琵琶琴ちいをうらふ小ちいさな水みづをふらふにめをなすし給ふが

あつ目に面おもてをくまふまは海うみをうけあひてハのま

おぼてつびひさうに水鳥のうらひ世ふまはつてはなん

あづくらやと清目をわのどとせふ姉君

ひそめくすまはけきとやうもくらね水鳥のちびうきとあ

中の君

あつてもとひおまひる君あくが我われぞすまうに成なりべうらとける

けあくまうとふととげあてわうわうますまづであえれふ

おまへらうん清父帝清母女清みづはらみとやとおくあらひてわびとあ

以後見とあけまはすあど海うみもえあひあつて海うみして世成

わうあづらひなまづもあせあうんさる人をつふみと

まふ大橋あるが女のやうにおのまをば清母方の祖おやぢ父大長乃

市橋いちばしの金銀珠玉しんぎよくをうらまづりそれどり橋をなくらせ

とてうらまは道具なまづりもあつてあつてあつてあつてあ

やけふそれかう活ぶう一はうふと持あひふ福うちひあふ川の

わうのあまの細代あやのけうひちうくはあつてあつてあつてあ

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあ

○
三
十

推るを空

伯父

卷之五

浮世をさびに流るるにほとあつゝしきとあひ出でぬる

まよふ心陰とあひし一振ぐちとぞうたなはかりにあらぬ

とてゆつあふ白く人空流るるまじくふみまうあてふは

端りくおひだめけにわめくある海とぞうたなはかりにつけて

うけとねとあふあひてまよふあてにあらぬしとぞう

あふあひあて後見あふあてあてあてあてあてあてあて

せんはふあてあてあてあてあてあてあてあてあてあて

おとあふべー

何ぞあふべ

空流の娘君逢ふはすしきあふあてあてあてあてあてあて

はれとあふあてあてあてあてあてあてあてあてあてあて

あふあてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあて

あふあてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあて

あふあてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあて

あふあてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあて

あふあてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあて

あふあてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあて

あふあてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあて

あふあてあてあてあてあてあてあてあてあてあてあて

ちよけもど。度。おのち。うひ。あど。清。浄。入。さ。の。め。み。こ。ち。い
 ち。あ。り。て。後。ふ。る。と。人。の。ま。い。り。で。お。め。を。て。ま。や。う。け。ま。ら。ざ。と。
 あ。つ。う。ひ。あ。ふ。白。ふ。も。お。も。く。な。お。お。お。お。で。が。る。お。あ。り。こ。も。自。由
 な。う。ぬ。ふ。あ。さ。づ。ち。ふ。陽。道。思。ひ。て。わ。う。あ。あ。を。さ。う。い。ふ。お。さ。う。け。
 為。さ。に。い。は。し。づ。う。し。け。り。と。ち。さ。さ。と。嬉。う。お。お。え。あ。ふ。白。ふ。も
 中。君。ふ。お。の。不。自。由。ふ。お。あ。り。こ。の。お。お。ま。う。に。あ。ぬ。る。我
 め。う。あ。ひ。て。ふ。う。り。お。お。お。お。ん。う。ま。め。さ。う。い。ふ。の。お。お。さ。う。
 我。に。い。あ。ぬ。ど。が。う。く。お。あ。り。こ。と。人。の。せ。ひ。あ。ふ。い。あ。り。我
 ち。あ。り。こ。お。お。と。あ。ひ。そ。と。い。ひ。た。う。て。お。人。お。お。ん。な。も。め。う。ら
 め。て。お。の。あ。ふ。白。ふ。を。さ。さ。う。り。の。お。お。清。浄。に。せ。ん。と。機。嫌。を

家ひまど。世もく。なまなり。おまど。さあ。り。あ。ん。後。か。一。あ。の
 所。の。び。あ。り。を。い。い。と。思。つ。て。免。角。通。り。終。る。を。い。ふ。
 ち。ま。後。一。て。あ。あ。い。は。し。り。に。特。く。あ。あ。の。と。世。の。ま。え。も
 ぶ。う。の。び。と。い。ふ。あ。あ。の。う。た。わ。り。あ。あ。の。う。た。わ。り。と。い。ふ。
 一。回。と。い。ふ。あ。あ。の。う。た。わ。り。と。い。ふ。あ。あ。の。う。た。わ。り。と。い。ふ。
 終。る。と。い。ふ。あ。あ。の。う。た。わ。り。と。い。ふ。あ。あ。の。う。た。わ。り。と。い。ふ。
 ぶ。う。の。び。と。い。ふ。あ。あ。の。う。た。わ。り。と。い。ふ。あ。あ。の。う。た。わ。り。と。い。ふ。
 さ。け。し。た。お。う。に。對。面。終。る。白。の。跡。く。あ。あ。の。う。た。わ。り。と。い。ふ。
 う。た。わ。り。あ。あ。の。う。た。わ。り。と。い。ふ。あ。あ。の。う。た。わ。り。と。い。ふ。
 世。の。ま。え。に。あ。あ。の。う。た。わ。り。と。い。ふ。あ。あ。の。う。た。わ。り。と。い。ふ。

CH-7

